

## 第3回ごみゼロプラン推進委員会議事概要

日 時：平成 18 年 6 月 29 日（木）14 時から  
会 場：三重県水産会館 4 階 研修室  
出席者：別紙出席者名簿のとおり

### 1. 開会

### 2. あいさつ

余谷総括室長

### 3. 委員・事務局紹介

事務局

### 4. 平成 17 年度のごみの現状について

事務局（資料 1、参考資料 1 について説明）

（植村委員）

私たちは自分たちの地域で、できるだけ皆さん絞ってごみを出しましょうということで、今なかなか水分が多いとごみが燃えにくい。燃えにくい中、重油を使ってよく燃えるようにしようとする。焼却場ではそのような現状がございます。やはり地球温暖化のためにCO<sub>2</sub>を出さないように言われながら、重油を燃やしておればやはりCO<sub>2</sub>も伴ってきます。だから、これからは各家庭で奥さん方が、みんなが水分をしっかり切ってごみを出す。また天気の良い日は乾燥させて出す。

これも今後そのように家庭の主婦が、面倒なことです。やはりみんなで絞って出していこう、乾燥させて出していこうという、そういうことも一つの課題ではなからうかと私は思っております。

（野中代理）

資料 1 の排出の状況で、事業系のごみが減ったのは値上げによるものかなということと言われましたが、そのごみというのは事業ですからほとんどペーパーが多いのか、そのごみは裏面も使ったり再利用しているとか、行き先とか、そういうところまでは追究はしていないんですか。

( 広瀬委員長 )

つまり、他に行っているんじゃないか、あるいは全体量が減ったのかということですね。

事業系ごみの値上げをすれば、多くの場合、資源の中の紙ごみ等がリサイクルのほうに回っていくということで減るといのは他の市町村でもあるんですが、そういう追跡調査をしていますかという質問も含めて、減ったということはいいことなんですが、どういう形で減ったのかということなんです。

( 野中代理 )

例えば不法投棄が増えておるんだとか、勿論、家庭の方でもそういうことをされる方もみえるかも知れませんが、よく山に捨ててあったとかする場合がありますじゃないですか。

( 広瀬委員長 )

多分こういう有料化をしていきますと、合わせて資源化のほうに流れるような施策とセットになっていますよね。だから当然そちらのほうに流れているはずなんですが、どれくらいそういうほうに流れて、あるいは全体量としてどれくらい減ったかという資料もできれば集めておくと、事業系をこれくらい減らす、一般系を減らすという時の参考になるから、そのへんが分かればまた提出してください。

( 事務局 )

家庭ごみの有料化などの施策を実施した時にごみがどう動いているかということろまでは、解明に至っていないというのは事実です。

( 金谷委員 )

これは全体なので、この 13.5%減ったというのは大事なことなわけです。ですからそれについてはできればこれでもう 1 枚、市町村ごとに事業系ごみについての表があれば、確かにこれが値上げすればここで 3 割くらい減っていて、やっていないところはほとんど減っていないですね。合わせて 13.5 くらいだったら、もっと効いているということになるじゃないですか。

( 事務局 )

分かりました。ありがとうございます。

( 金谷委員 )

他に、もっと可能だったら、事業者のほうへの何某かの簡単なアンケートをされたらもっといいと思います。市町村ごとのこの部分についての詳細な表と、あと、市町村でされているような施策を表にされたらいいかと思います。

( 広瀬委員長 )

ありがとうございました。

有料化はごみゼロプランの中でも重要な施策の柱ですので、そういう資料ができればお願いします。

( 事務局 )

次回また改めて資料をご用意させていただきたいと思います。

( 広瀬委員長 )

一つはやっぱり生活系のごみはなかなか減ってない、これから施策が必要だろうという主旨のご質問もありましたし、事業系が減ったならどう減ったのかということについてももう少し見ていく必要があるだろうということで、ご意見をいただきました。

事務局 ( 参考資料 2 について説明 )

事務局 ( 資料 2 - 1、2 - 2、2 - 3 について説明 )

( 広瀬委員長 )

委員会の時間は短いものですから、これを見てすぐに意見を言えというのは難しいんですね。ですから、ポイント、今回は時間がありませんでしたけれども、できたらせっかくやっていただいたので、ここからどういうことが見えるのかということをもとめたものを出していただけると、委員さんもまた意見を出しやすいと思いますので、そういう点でまたここから何か分かりましたら追加していただきたいと思います。

( 金谷委員 )

参考資料 2 ですが、有料化について市町村レベルでの取組だと思うんですが、できればもうちょっと調べたほうがいいと思うことがあります。この参考資料の 1 ページで県平均と導入市町村の平均を比べるのはちょっとラフだと思うんです。やっぱり導入市町村ごとの制度導入前後で見ないと難しいと思います。

もう一つは導入市町村がいつ導入したのかと見れば、その前後、導入の前の年とその翌年か導入直後とその次の平均とかでそのへんの減少率みたいなものと、この袋の単価を比べると非常にすっきりすると思います。そうしないと、もともと差があるわけですから、そのへんの解釈が難しいので、それを加えるとより説得力が増すのではないかと思います。

( 西川委員 )

資料 2 - 1 の 3 ページに「ごみ減量化等の取組状況 ( 市町 ) 」とありますが、その真ん中あたりに「GPS を活用したごみ排出特性の把握」と書いてありますが、これはどんなことなんでしょうか。

( 事務局 )

「GPS を活用したごみ排出特性の把握」につきましては福岡の事例でございまして、清掃事業者の収集車のほうに GPS を付けられまして、そこでどれだけ動いているかとか、止まっているか、動いているかの情報をどんどん取りながらシステムを見直していくという形の取組がなされております。

## 5 . 平成 17 年度のモデル事業について

事務局 ( 資料 3、資料 4 について説明 )

県として考えます今後の検証やフォローの視点なんですけど、定期的にごみ組成調査ですとかアンケートをやりまして、計画を実施する前との比較によりまして、分別がどう変わったか、あるいは計画の浸透状況はいかがなものか、減量効果はどれぐらい出ているのか

ということについて把握を行っていくことを、桑名市さんに対して働きかけをしていきたいというふうに考えております。

以下、伊賀市、紀宝町についても同様

(金谷委員)

ごみ有料化について今後の検証・フォローの視点のところに書かれていることも勿論重要なんですが、これから県内で市町村の有料化の導入検討を促進するためには、この結果としての値段だけではなくて、各市町村で、どこでどういう論理で決めたのかということをやちゃんと整理する必要があると思います。

(広瀬委員長)

合わせて申しますと、当然有料化したいけれども、どういう論理でどういう手続きでやれば、住民の理解が得られるかということになると思います。そのあたりをまた追って追加で調査されて、この報告の中にまとめていただければと思います。

ごみ減量化事業は、成果をかなり簡単にまとめていただいたんですが、やはり数字的にどのくらいということが全然なかったですね。それぞれの三つでどれくらい平均的に見てごみに回っていた分がどれくらい減少になったか、そのへんも当然あると思いますので、また付け加えていただければと思います。

(事務局)

今後、コスト的なものも含めてご提示をさせていただきたいと思っております。

(高屋副委員長)

鳥羽市はこうだから、他は減ったよとか、お蔭様で鳥羽市も減りましたよというふうに事細かに書いていただくほうが、県民の方に分かりやすいと思います。

(金谷委員)

有料化の料金でもう一つ知っていて欲しいのは、40 リットルでいくらだという時に、ごみ処理経費の部分のお金と、袋を作るお金があります。そこをはっきり分けて書かないと、袋の種類も市町村毎で違うでしょうから、本当にいわゆる正味で有料化するのはどこなのかということをはっきりしないとまずいと思います。

あとは市町村によって、もしかしたら袋に広告みたいなものを入れて、それをもって経費を減らしているところもあると思います。だから、そのような細かいところも可能な範囲で整理されたらいいんじゃないかと思います。

(広瀬委員長)

県では、いろんな地域でそれぞれの市町村の担当者の方々との交流会がありますよね。そこでこれらの結果を報告して、ご質問をいただいて、その質問を受けた上で充実したようなものを作って広めていく、そのあたりもどうぞよろしくお願いします。

## 6 . 平成 1 8 年度の取組について

事務局（資料 5 について説明）

（広瀬委員長）

17 年度は 3 件、ごみゼロプラン推進モデル事業をやりましたね。今年度は二つということで、ちょっと減って寂しいんですが、このへんはいかがでしょうか。

（事務局）

今、県内の合併された市町さんに廃棄物会計を一つのツールとして、今後のごみ処理システムについてご検証いただけませんか、こういったモデル事業というのはいかがでしょうかというようなご紹介させていただいている状況です。ぜひとも、もうあと数件、モデル事業として今後成功事例の一つとして展開していけるような事業を探したいと考えております。

（服部委員）

いろんな減量化に向けての取組の仕方があると思うんですが、まずこの 875 トンの使用状況はどうなんだと。この中に無駄があるのか、実際にはもっと必要量があったんじゃないか、もうちょっとこれを増やしても、そのほうが人件費が下がるんじゃないかとか、そのほうが電気代が下がるんじゃないかとか、いろんな視点の見方があると思うんですが、そのへんの検討というのは考えてみえるんでしょうか。

（事務局）

詳細な検討についてはまだできていない部分があります。ただ、そういった削減と合わせて、おっしゃられたようにエネルギーであるとか効率であるとか、そのようなところまで若干まだ踏み込めていない部分はあるのかなというふうには考えております。

（広瀬委員長）

ただ減らすだけじゃなくて、どういう減らし方をするとどういう効果があるか、確かにそういう情報があると参考になりますね。

（服部委員）

効果的にやるというのは何か方法を見つけないと、条件が違うところで比べても全然意味がありませんので、できるだけ条件を揃えてやるとおもしろいんじゃないかなと思います。

（金谷委員）

例えばペーパーレスの取組では、会計関係の書類等を全部パソコンでやってしまうとか、また、会議資料も配らなくて済むようにするとか、何か一步一步のこともいいから県でモデル的にやってみて、それを事業者の皆さんに提案できるような形の取り組みというようなものがあってもいいんじゃないかなという気はします。

（事務局）

毎回この I S O の達成目標は、紙ごみの排出量が県庁自体で達成できていないような状

態でございますので、先ほどおっしゃられたような何かいい取組ができれば、皆様にもご紹介をさせていただきたいと考えています。

## 7. ごみゼロ社会実現プランの進捗状況の点検・評価について

事務局（資料6について説明）

こちらにつきましては、まだフレームワークのような状況でございます。このような形で7月いっぱいかけまして、また今日の委員の方々からのご意見等を踏まえて、7月中にすべての整理をさせていただきたいと考えております。それを8月には各委員の皆様にご報告なりというような形で一度お示しをさせていただきまして、そこでのご意見・ご提案を踏まえた上で次回の委員会に諮らせていただきたいと思いますと考えております。

（広瀬委員長）

そうしますと、素案のより完成したものは次回にもう一度出てくるんですね。今ここではまだ完成したものではありませんけれども、構成とかその内容についてご意見がいただければということですね。

（金谷委員）

空欄の部分の説明が、これは取り組んでいなければ0%なので、対象外の部分と、それからよく分からないという両方あると思うんですが、ここはどういう意味ですか。

（事務局）

基本的にはこの白抜きの部分については、ここはプランのほうに掲げてあります役割のないところです。

（金谷委員）

それだったら、この資料としては横棒を入れておくとか何かしておいたほうがすっきりすると思います。

（広瀬委員長）

今のところは、色も実際はいいものが緑で、悪いものが赤というものが多いんですが、これだと何か悪いほうの0%が青になっているので、何となくそのへんの色は逆にされるほうがいいのかと思います。

（事務局）

色のほうはもう一度考えさせていただきたいと思います。

（服部委員）

例えば、県の中で職員に計量してもらおうとか、簡単にできるいわゆる計量器を開発するとか、何か具体的にこうしたら市町村さん簡単にできますよと、興味のある人を見つけながら、こういうふうなモデル作業をこの機械を使ってやってもらえませんかとか、具体的な形でやられると効果として上がるし、市町村さんにもそういう方が興味を持ってやられると思います。計画だけ作って、こうせい、ああせいという形ですと、結局、「笛吹けども踊らず」という話になって担当者が困ると思います。

実例が分かっている現状の中で、やはり県の姿勢として率先垂範で、私達もこの方法でいっぺんやってみるから、皆さんもいっぺん検討してくださいと。このような形で両方がそういう方向性でやられると、少しでも効果が上がるし、気持ちよく目標に向かって行ける形によりなるんじゃないかなと思います。

(事務局提案)

プラン推進委員会としても、今後このプランの進捗を管理する中で、数値目標についてもご議論をいただく機会を設けていただけないかなと考えております。こちらの資料については、また次回合わせて資料をご提示させていただきましますので、その時に、例えば効果をもっと出てきた段階で数値目標をどうするのか、そのような形で議論の一つのテーマとしていただきたいと思います。

(広瀬委員長)

今の段階で実際もう計画より進んでしまっている部分をどうしようということですね。

(服部委員)

例えば、この棒グラフ上で現在はマイナスなんだけど、現実的には本来のその数字はあるものだよということで、別にその上に乗せていただけると、現実には実際の数字が減っていったのか増えてきたのか、比較ができると思います。

(広瀬委員長)

ガス化溶融炉の導入によって、そのスラグの部分は資源とみなすから、だから最終処分量が減っているんじゃないかという確認が一つ。それがあんなら、それをこのグラフの中に盛り込むような形にして、実際に減らしてきたわけじゃなくて、ハードの施設が変わったからこうなりましたよというのが分かるようにすると良いのではないかな。

(広瀬委員長)

ガス化溶融炉によるスラグ分とか容器リサイクル法による部分も想定してこの目標じゃなかったんですか。

(事務局)

目標の設定時においては、一番はじめその削減率としては焼却灰の量もカウントしております。ただ、数値目標として最終目標はきちとした積み上げになっておりますが、短期、中期については全体の削減率の何割という状況にしてあります。

(広瀬委員長)

つまり予想より早くハードによって落ちてしまったということですね。計算の中には入っていると。そのへんも含めてまた次回に議論することとして、またご意見をいただいて、短期目標の数字を変えるのか、あるいはもうそのままか検討したいと思います。

## 8 . ごみゼロ社会実現に向けた次期戦略について

事務局(資料7について説明)

古紙回収とかフリーマーケットとかいろいろございますが、これにつきましては今後、

一番適切な指標を事務局のほうでも考えて提示をさせていただきたいと考えております。

(広瀬委員長)

これは今日ということではなくて、今後のたたき台ということですので、これを見ていただきまして、ご意見、改善点などがありましたら、事務局のほうに寄せていただくなり、あるいは次回またご意見をいただければと思います。

## 9 . ごみゼロ白書について

事務局 (資料8 について説明)

事務局 (資料9 について説明)

今回、お手元でございますのは白書の構成案でございます。今回のこの委員会のご議論等々を踏まえまして、次回の委員会のほうで素案をお諮りさせていただいた上で、10月ぐらいを目処に発行できればいいかというふうに考えております。

(野中代理)

ご説明に「カラーイラストや写真で非常に分かりやすく」と言っていただいたので安心してはいるんですが、これ自体がごみにならないように、ぜひともしていただきたいと思います。PTAの代表ですので子どもにも分かるようなものをお願いします。

(高屋副委員長)

子どもたちにぜひこの白書を配ってください。よろしく願いいたします。

(事務局)

まずは白書の全体版を作成させていただきます。子供たち向けとなりますと構成や表現の仕方がまったく違うものになります。これについては、PTAさんにご相談に伺ったうえで十分考えたいと思います。

(広瀬委員長)

今日の審議は一通り終わりましたので、時間の足りない部分については、また次回議論したいと思います。

(事務局)

本日はどうもありがとうございました。これで第3回のごみゼロプラン推進委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(終)